

[論 文]

日本の古典俳句と絵画に関するオープンウェブサイトと オンライン・コースウェアの比較

江戸川大学メディアコミュニケーション学部情報文化学科 佐賀 啓男

1. オープンウェブサイト開発の目的

本開発研究におけるオープンウェブサイトは、高等教育機関で共通に用いることのできる文学・美術分野のデジタル化された教材をウェブ上に開発し、それを一般の愛好家にも広く開放して、その意義を明らかにすることを目的とした。

2. 研究開発の対象と方法

開発の分野として焦点を当てたのは、日本 18 世紀後半の近世中興期〔宝暦から天明（1751～1784 年）〕の俳諧と文人画である。この時期は、与謝蕪村を中心として、俳諧における復古展開、美術における南画・文人画の発展期であるという特徴をもつ。

開発の対象とする主な資料は、俳諧分野は書籍と書簡、美術分野は掛軸と卷子本であり、いずれも著作権処理の容易な個人(筆者)所蔵のものを対象とする。これらの資料をデジタル化して静止画ないし動画に収め、それに書誌事項、文章の翻刻、絵画解説等のテキストを対応させる。

全体は俳諧の部と絵画の部に分かれるが、それぞれの細部の有機的な関連に配慮する。また、テキストは日本語と英語の両方を用いる。開発した教材は、教室場面とインターネット上の両場面で効果を検証し、改善のための示唆を得る。

3. ウェブ・サイトの構成

サイトは、その日本語トップ・ページ、<http://ship.nime.ac.jp/~saga/busonj.html>とまったく同内容の英語トップ・ページ、<http://ship.nime.ac.jp/~saga/buson.html>からリンクして、内容が展開している。なお、この開発は筆者の前勤務先であるメディア教育開発センターのサーバー上で行ったが、平成 19 年度

には、そのサイトをすべて江戸川大学のサーバー上に移植した。その URL は、

<http://www.edogawa-u.ac.jp/~saga/busonj.html>

である。図 1 は日本語トップ・ページの一部を示す。

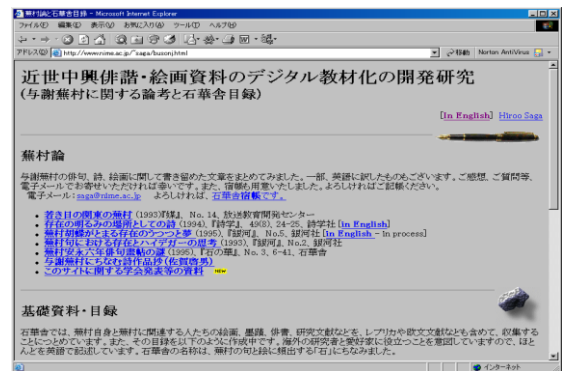


図 1 日本語トップ・ページの一部

サイトの全体は、

- 蕪村に関する論考群、
- 対象作品の目録部分、及び、
- 目録中の主要な作品の解説付きの図録

から成り、また、このサイトにアクセスする人が感想等を書き込める掲示板も用意した。サイト内のテキストは日英両語で提供することを原則としたが、これまでのところ英語のテキストは十分とは言えない。図 2 は、図録ページの一例である。



図 2 図録ページの一例

表1 2000年から6年間のアクセス傾向

Access index	May 2000	May 2001	May 2006	2006/2000
Total average hits to site per day	353	745	1,279	3.62
Max.	550	1,446	1,753	
Min.	146	476	688	
Average hits to English top page	45	33	26	0.58
Max.	77	56	38	
Min.	22	17	15	
Average hits to Japanese top page	16	47	51	3.19
Max.	27	69	123	
Min.	5	30	30	

4. 開発後のアクセス状況

このサイトの開発は1997年の春に始まり、それ以降新たなページが順次追加された。このサイトへのアクセスは、徐々に増加している。表1は、2000年、2001年、2006年の各5月中におけるページ単位のサイトへのヒット数を示したものである。全体の1日平均ヒット数は、同じ訪問者が異なったページを見た件数も含む。英語と日本語のトップ・ページへの平均ヒット数は、訪問者数の実数の推測値とみなすことができる。

全体として、このサイトは2000年5月から2006年5月にかけて4倍近くのアクセス増を見せている。よりポピュラーなサイトに成長してきており、実際、各種の検索エンジンで「蕪村」または「buson」をキーワードとすると、リストのトップにあげられるようになったことが反映している。

5. オンライン・コースウェアの開発

次いで、高等教育機関が教養教育のために、インターネットを介して用いることのできる文学・美術史分野のオンライン・コースウェアを開発し、その利用効果を検証することとした。それによって、我が国の教養教育を、方法と内容の両面において充実させ、この分野のオンライン・コースの圧倒的な不足を補って、今後のより組織的な開発のためのモデルを提供しようとするものである。

コースウェア化する内容として、18世紀後半の近世中興期の俳諧、及び、文人画に焦点を当てた。特に画俳両面に活躍した与謝蕪村とその作品に光

を当てることによって、教養教育の内容としてふさわしい、詩と絵画の関連を強調した特色ある開発研究を行う。文字テキスト、絵画作品画像等の素材を教養教育のコースにふさわしく魅力的に配列・展開するよう留意し、それをコースウェア運用ツール上に実現しようとした。

開発は平成14年度に開始し、これまでに①コースウェアの素材となる資料の整理と配列、②画像とビデオ素材のデジタル化、及び、③10回分のコースウェアのテキストと画像の入力、及び、大学院生対象の運用試験とモニター調査を行った。①の絵画分野については、主として研究分担者の佐々木（京都大）が執筆したテキストを用いた。②の俳諧部分については筆者が担当して萩原朔太郎『郷愁の詩人と謝蕪村』をテキストとして入力した。コースウェアのプラットフォームについては、研究分担者の梶田（名古屋大）を中心に吟味して選択したWebCTを利用している。図3はコースウェアのトップ・ページである。

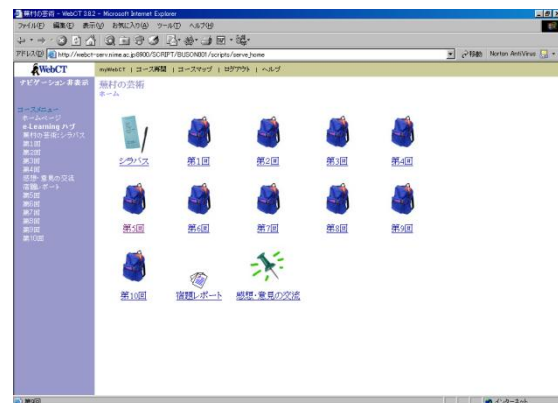


図3 コースウェアのトップ・ページ

また、図4は、コース内のページの一例であり、テキストとそれに関連する絵画作品等の画像を適切に配置するよう工夫している。



図4 コース内のページの一例

なお、コースの半ばでビデオ教材を視聴できるよう構成したが、これは市販のビデオ教材であったため、著作権上の問題が生じた。販売会社へ許諾を要請したところ、ビデオ内の各種資料の画像は、ビデオパッケージでのみの利用で許諾を受けており、クローズドなサイトであってもウェブでの利用は不可とのことであった。そこで、このビデオ教材は、モニター評価の期間のみの利用に限定することとした。

6. 両サイト比較のモニター調査

大学院生6名を対象に、2つのサイトを蕪村について学ぶという観点で探索し、それぞれのサイトの特徴を比較するという課題によってモニター調査を実施した。その主な結果は以下のとおりである。

- ・オープンサイトは内容が豊富で、興味をもつ人が自由に深く楽しめる。しかし、導入的な解説がないので初心者向きではない。
- ・コースウェアは授業計画を知ることができるので学習の目安が立てやすく、予習、復習に効果的。また、蕪村の画業と俳諧について系統的に記述してあるので初心者向きである。

・オープンサイトの蕪村論から感銘を受けた。ただし教科書的ではない。英語とイタリア語の部分もあり、世界に通用している。また、「宿帳」(掲示板)で世界の人との交流があるのはすばらしい。

・コースウェアにも掲示板があるが、始まったばかりでほとんど書き込みがない。課題を出して、使える可能性がある。

・オープンサイトではトップ・ページの目次にリンク先がほとんど収められて便利だが、やや詰め込みすぎであり、階層的に整理するとよい。

・コースウェアのトップ・ページはアイコンで示されていて全体の構成が明快であり、学習しやすい。なお、コースで学習したことを確認できるテストのページがあってもよい。

・オープンサイトの「図録」部分は、画像が豊富で楽しめるが、余り整理されていない。題材や時期によって整理するとよい。

・コースウェアの5回目のビデオ視聴は楽しい。4回目までで学習したことの復習にもなり、学習が定着する。また、いい気分転換にもなる。

以上をまとめると、オープンサイトは蕪村についてあらかじめ興味をもっている人が深く学べ、コースウェアは初心の人が系統的に導入的な学習をでき、また、授業計画を知ることができるので、予習、復習に効果的である、ということができよう。

注) 本研究は、科学研究費補助金基盤研究(課題番号14380091, 平成14~16年度)の補助を受けた。